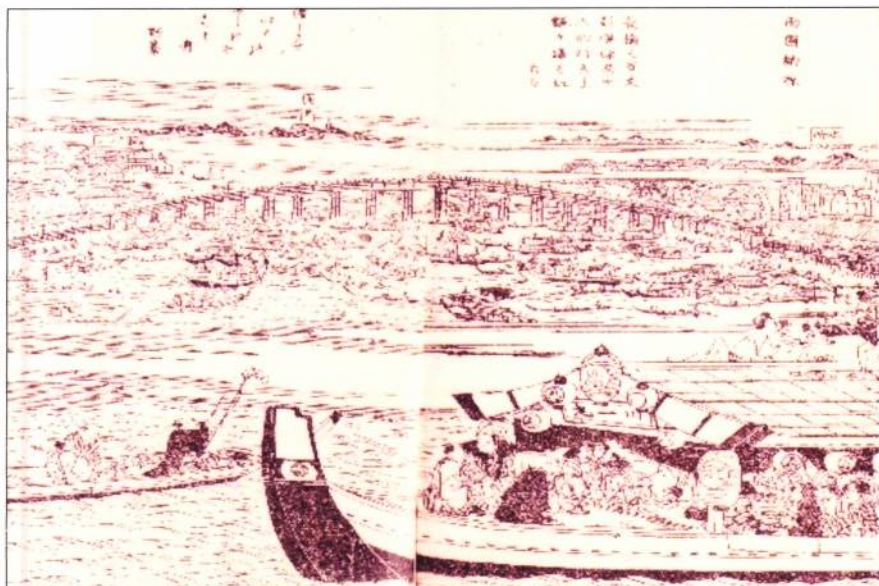


練馬Press

号外

納涼特別号・8月

猛暑の練馬を逃れて 江戸前の「納涼船」で夏を乗り越えよう



江戸名所図会にある納涼船

屋形舟は宝永の頃より流行り出て百船に限りとぞ。東国丸といえるを大船の始めとし、続いて熊市丸山一丸あり。熊市は座敷九間に台所壺間ある故なり。天和のころの屋形船の名目は紫のひとつもとに見えたり。

誰が為ぞ
朝寝 昼寝 夕涼み

時分はふじ
土用はじめの舟遊山
基 角

釣部会ついにスタート

2年越しの「釣り部会」がとうとう発足しました。岡田吉郎氏が部長に就任。「イザ海に行かん！」と釣れるだろうかと、早々「フリーザー」を買って込んだ人も。以下は初体験の何某のレポート。(7月23日曇り波静か)

何故か買ったばかりの長靴は左右がチンパ。これも新品の「フリーザー」を抱えて京急で久里浜へ。フェリーで房総半島に渡って外房の金谷に。それだけで「疲れた！」とは何たることか。「こんなに遠くまでこない釣りは無いのか」とまずは「船酔い止め」の薬を一服。

アルコールを先に飲んだら良いのに。釣竿を支給されて、餌の付け方、リールの巻き方のレクチャーで勇躍海に。

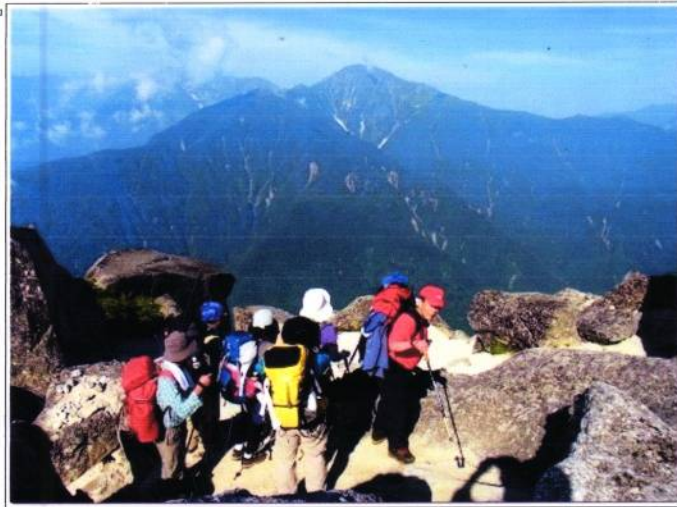
「エイヤッ」と釣り糸を放りだしたがエサを取られるばかり。隣の何某は船酔いで悪戦苦闘。それでも酔わない小生よりも余計に釣れるとは何たる不条理。4時間でイサキ2匹。荻野会長、岡田名人は5匹。酔っ払った何某も5匹。釣果を持ち、会長行き付けの虎ノ門の寿司屋でやっとなアルコールにありついた。午後10時。捌いてもらったイサキを、20リットル入れの「フリーザー」に入れて我が家に。足を引きずっての帰宅も「釣果」で納得。これでれっきとした「釣り部会」のメンバー。次は何処に。(まず竿を買うのが条件さ)と「陰の声」。



山歩き会「南アルプス」征服

創立2年。意気上がる「山歩き会」はこの夏ついに「南アルプス・鳳凰三山」に挑戦した。山ガールも縦走に挑戦。レポートは、次のページに掲載しています。皆さん元気!

速報！金メダル 山歩き会も頑張った 「山歩き」から「岳」歩きへ「南アルプスに挑戦」



2年間培った体力と、ベテランリーダーに率いられて本格的な「南ア」に8人(女性4人)が挑戦して見事「金メダル」。7月28日から2泊3日。延べ歩行19時間。

夜叉神峠を経て南御室小屋までいきなりの7時間30分の急な登り。尾根筋に出れば一望の「南アルプス連峰」。

つい先週20年ぶりに見つかった「雷鳥」にも出あった。薬師岳(2780m) 観音岳(2840m)を走破して鳳凰小屋へ。3日間の山旅に全員「一生の思い出になった」と感慨もひとしお。

「山を目指す人は一日一回必ず一時間は歩く」というのが「山歩き会」の鉄則で、これからが本格的な活動だと張り切っている。皆さんどうかまた「金メダル」を！

上高地で雨についてトレーニング

ウエスタン祭りが終わったばかり。新緑に降り注ぐ初夏の雨。残雪に迎えられて明神から「徳本峠」に。残念だが明神岳、穂高連峰は雲の中だった。

化粧柳の緑。二輪草が咲き乱れて、見上げればシヤクナゲの群落も。次の目標は南アルプスの「鳳凰三山」月一回の山行は、メンバーの体力を確実に上げた。

顔付もあの「山男」「山ガール」に変貌してきた。

これで「夏も大丈夫！」待ち受けるのは富士登山、三ツ峠、西沢溪谷など。頑張れ！



忘れていた「時」を持ちました。闇に舞う「ホタル」

ウォーキング愛好会・夏の宵に夢を見た



木立や草むらの中に黄緑色のほのかな光が舞った。「蛍」の光が、忘れていた時の流れを思い出させてくれた。7月も終わりの28日(土)に、思いがけぬ「蛍」観賞会が早稲田大学・所沢キャンパスで開かれた。小手指駅からバスで15分。武蔵野の一角。ワセの自然、湿地の保護活動をしているワセダボランティアセンターの企画にウォーキング愛好会が参加した。「自然は放置されると失われる」との説明を受けて暫し暗闇の中に。参加者は26名。木道をたどって約30分。森の中の湿地である「光」が目の前にあった。歓声があがり、幻想的な風景に皆が時の立つのを忘れていた。都心から約1時

間。こんなところに別天地があろうとは。

あんまり人には知られたいくない自然。これも「早稲田」が取り持つ縁。来年の夏もここで「光の舞い」を見よう。

八朔の「夏越神事」も無事に終わった思いがした。この企画は「ウォーキング」部会長の日頃のご努力で実現しました。同じ日に「山歩き会」「麻雀」「囲碁」とサークルは全回転。震災、原発事故と「灰神楽」が舞い立つようなこの頃。元気で行こう！

